

会場のみんなが一体となって



親子セミナー 9月10日



第680号
 発行人 ● 豊丘村公民館 館長 原 国人
 編集人 ● 長野県下伊那郡 豊丘村公民館報 編集委員会
 0265-35-9066
 印刷所 ● 龍共印刷株式会社

私たちの村
 (10月1日現在 ※外国人を含む)
 男 3,344人
 女 3,418人
 総人口 6,762人
 世帯数 2,133戸

全日本壮年ソフトボール大会が九月一日から四日まで静岡県で開催され、豊丘48オールスターズが、長野県代表として出場しました。

五月の長野県大会で二十九チームの頂点に立ち優勝した豊丘48オールスターズは(本紙六月号掲載)全国大会でも強豪チームを相手に大健闘しました。昨年は日本マスターズ全国大会に出場した豊丘48オールスターズ。来年も是非全国大会出場を期待しています。

豊丘48オールスターズ
 片桐雅博

静岡県で行われた「全日本壮年ソフトボール大会」に出場してきました。予選である長野県大会で優勝し、昨年に続いて全国大会に出場することができ、とても幸せなことだと思っております。二回戦から登場したよん

ばちは、勝ち上がってきた超強豪の群馬県代表に対し互角に戦い、なんと勝ってしまいました。三回戦は最終回まで粘りを見せましたが、北海道代表の剛腕投手にしっかりと抑えられてしまい、残念ながら二対三のサヨナラ負けで終戦となりました。

全国大会なので真剣勝負なのはもちろんですが、緊迫感の中でお互いにソフ

トボール好きの仲間同士という感じで、とても楽しく試合ができました。この二年程は出来過ぎで満足している一方、もう一度あの舞台に行きたいと欲が出てしまう今日この頃です。



全国大会ベスト16位に満面の笑顔でピース

△今から四十年以上も前になるのだろうか、勤務先の仕事で広告関連だったことで、撮影の仕事も行うようになった。全く知らないカメラの知識を先輩より徹底的に教え込まれ、当時カメラはマニュアル操作だけの時代。ピントを合わせ露出を測り絞りとスピードをセツトして、やっと撮影できるという原始的な作業の連続であった。この作業を熱心に教えてくれた先輩がいた。仕事が終わっても自分を自宅に招き、いつも最初に戻って指導してくれたのだ。見て学べの風潮が残る時代の中で、構図はもちらん細かなことまで教えてくれた。今こうしてスナップや風景など分けることなく何でもこなすことができているのも、基本をしっかり教えてもらい学んだからのことであり、あの頃の先輩たちにはとても感謝している。

▽あのころ学んだ写真についての様々なことを、写真人口拡大のため今の自分は同じことをしている。美しい風景を見つけたら、この場所を隠さずにオープンにして全ての人が撮って欲しいと思うし、優先して地元風景を残していきたい。リニアが通ること大きく様変わりするあらゆる場所を、一枚でも子孫たちに残したい。これからの活動は「自分は何のために生を受けたか」を考え実践していきたい。

(宮下正弘)

〜パワフルなパパの声〜

パパズ絵本プロジェクトの皆さんによる

おはなしライブ

絵本と音楽のコラボレーション
 林原 小椋麻美

先日は、親子セミナーに参加させていただき、とても楽しい時間を過ごすことができました。私自身、本が好きで、娘には産まれてすぐの頃からずっと絵本を読み聞かせて、一緒に楽しんできました。村の支援センターで企画してくださっている、絵本の読み聞かせ「ハイジの会」にも子供二人を連れて、いつも楽しみに参加させていただいています。

今回の親子セミナーは、男性五人が絵本を読んでくれるとお聞きして、何だか新鮮で、どんなお話が聞けるのかと楽しみにしていました。

親子セミナーに参加して
 中平 五味佳恵

子どもと二人で親子セミナーに参加しました。「パ

パ」の絵本の読み聞かせと音が珍しく、どんなものだろうと思っていました。父親の読み聞かせの良さを感ずるセミナーでした。父親と母親の違いは、まずはパワーです。パパさんたちの大きな声、低い声はともパワフルでした。読んでいたお相撲の絵本に出てくる「はつきよい！」というセリフや擬音は、勢いと臨場感を感じて引き込まれました。

もう一つは、選ぶ絵本の違いです。先ほどのお相撲やトンボとりなど、母親が選ばないような絵本がありました。父親と母親の選ぶ絵本が違えば、子どもが触れる絵本の範囲が広がるのではと感じました。

また、パパさんたち自身が楽しそうだったのが印象的でした。子どもたちを楽しませようという気持ちが伝わってきました。

子どもとよく図書館へ行くのですが、たいがい母親である私と二人で行きます。父親も一緒に行く機会を増やして、父親目線で選んだ絵本で、父親も一緒に絵本を楽しんでいけたらと思います。子ども、母親が選んだ絵本に父親の選んだ絵本が加われば、寝る前の絵本タイムが家族みんなの楽しい時間になるのではと思います。



段丘

△今から四十年以上も前になるのだろうか、勤務先の仕事で広告関連だったことで、撮影の仕事も行うようになった。全く知らないカメラの知識を先輩より徹底的に教え込まれ、当時カメラはマニュアル操作だけの時代。ピントを合わせ露出を測り絞りとスピードをセツトして、やっと撮影できるという原始的な作業の連続であった。この作業を熱心に教えてくれた先輩がいた。仕事が終わっても自分を自宅に招き、いつも最初に戻って指導してくれたのだ。見て学べの風潮が残る時代の中で、構図はもちらん細かなことまで教えてくれた。今こうしてスナップや風景など分けることなく何でもこなすことができているのも、基本をしっかり教えてもらい学んだからのことであり、あの頃の先輩たちにはとても感謝している。

▽あのころ学んだ写真についての様々なことを、写真人口拡大のため今の自分は同じことをしている。美しい風景を見つけたら、この場所を隠さずにオープンにして全ての人が撮って欲しいと思うし、優先して地元風景を残していきたい。リニアが通ること大きく様変わりするあらゆる場所を、一枚でも子孫たちに残したい。これからの活動は「自分は何のために生を受けたか」を考え実践していきたい。

(宮下正弘)

避難所で生まれた自治

東日本大震災の経験から

地震防災講演会行われる

全村で行われた防災訓練に続き、九月十九日の夜、ゆめあるのホールに百四十人に達する村民が集い、地震防災講演会が開かれました。この催しは長野県生涯学習推進センターの移動講座として開催されたもので、講師には、東日本大震災に際して、福島県内最大の二千五百人もの被災者が避難したと言われる「ビッグパレットふくしま」に福島県庁支援チームの責任者として派遣された経験をもつ、福島大学特任教授、天野和彦氏を迎えました。

地震防災講演会に参加して

市ノ沢 鳴澤路代

九月十九日に開かれた、地震防災講演会に参加しました。講師の天野先生は、東日本大震災発生後、福島で避

難所運営に関わったということです。震災の教訓のひとつである、地域のつながりについて話してくださいました。

「災害に強いまち」とは、もともと人と人がつながっているまち、だそうです。ご近所にどんな方がいるか、どんな課題があつてど



う過ごしているのか：など平常時に情報の共有ができ、つながりがあれば、災害時に気づきの元となり命を守るきっかけになるということ。近所に改めて考えると、

「自治活動」の大切さも改めて感じました。福島県の避難所では「命を守るため」に自治活動を促進したそうです。いろんな地域の方が集まってくる避難所では、当初はコミュニティがバラバラだったため、交流

どんな方がいるかは知っていても、どんな課題をもっているのかまで思いを寄せるとは少ないと感じます。豊丘村でも、「避難行動要支援者名簿」づくりが進んでいます。情報を共有すること、普段から近所の方に関心を持つことから始め、いざという時の気づきにつなげたいと思います。

また、人と人のつながりの元となる「自治活動」の大切さも改めて感じました。福島県の避難所では「命を守るため」に自治活動を促進したそうです。いろんな地域の方が集まってくる避難所では、当初はコミュニティがバラバラだったため、交流

このサロンのように、自分のいる場所をもつと住みよくなると、という思いは、避難所だけに限らず、住み慣れた地域の安心・安全に

も通じるものだと思います。一人ひとりが暮らしの中の絆や地域への思いを大切に、災害に強い豊丘村につながるとうれしいと思います。

この催しは、十月一日に社会福祉協議会が開催した災害ボランティアセンター立ち上げ訓練にもつながるものとなりました。

外出することが多かつたが、その留守宅を懸命に守ってくれた奥さんは八年前に亡くなりそれ以降一人暮らしである。現在の楽しみはカラオケで、仲間と週に四、五日は通うほどである。取り出さ

リニアの声 第15回

リニア開通で活気あふれる豊丘村へ

壬生沢出身(飯田市在住) 米山正勝

リニア中央新幹線も大鹿村では掘削工事が始まり、豊丘村では戸中地区から野田平にかけて工事に向けた道路拡張工事が始まり、大柏地区には清水建設の建設事務所が開所する等、次第に現実味をおびてきています。リニア中央新幹線が開通すると、東京まで四十分、名古屋まで二十分とこれまでの所要時間が大幅に短縮されずける都市となります。伊那谷のリニア効果

はお金に換算すると年間四十六億円という試算もあり、開業に対する期待は大きくなるばかりです。リニアが開業することで東京日帰りも随分楽になる一方で若者の流出が懸念されておられ、人口の減少・更なる高齢化の心配も課題となること予測されています。しかし、逆に考えれば、都会の人から見ると自然溢れる伊那谷が近くなり、田舎暮らしに憧れる人達にとって気軽に往ける地域として、定住を考える人達も増えてくると思います。豊丘村は駅から三十分圏内の位置にあり定住の候補地になると

思います。他地域で運営されている空家バンクの様な仲介組織により、空き家の仲介や遊休農地の利用等、活性化の可能性は十分にあると思います。豊丘村には農家民泊施設やワーキングホリデーの他、イチゴ狩り・桃狩り等、様々な農産物の収穫体験ができる農園など田舎暮らしを体験できる場所が整っています。また、来年開業する道の駅にも期待するものがあると思います。豊丘村出身者として、豊丘村が地の利・自然の利を活かして積極的に都会へのアピールを行なうことで、定住希望者に魅力を感じて

もらい住んでみようかと思える豊丘村になっていくことを祈っています。

第10回 豊丘村リニア対策委員会 (9月29日 豊丘村保健センター)

大正十五年に現在地の近くで十人きょうだい(男女各五人)の三男として生まれた。父親(鹿角姓)は板金業を営んでおり、母親は新潟県の出身であった。きょうだいは仲が良く、喧嘩はほとんどしたことがなかったが、猶男さんはヤンチャで近所の遊び仲間のリーダー格であった。小学校を卒業し、手に職を付けさせようとする親の方針に従い、飯田の桶屋に住み込みで奉公に出て三年間働き、風呂桶から洗面用桶までの大小製品を作った。材料仕入れのため、時には木曾まで出かけることもあった。やがて奉公を終え自宅へ戻り桶作りを行った。しかし時は戦時下、猶男さんまでの男兄弟三人が出兵、長兄が戦死するという無念な味方を受けた。猶男さんは富山で訓練を受け、台湾へ派遣される直前に終戦となった。二十七歳の時に、飯田の市川家に養子に出て、同時に飯田出身の人と結婚し桶作りを継続した。そして運命の三六災に遭い実家は大きな被害を受けた。これを機に将来を見越して職業を建設業へと転換することを決意した。まずは重機を動かすための免許取得及び

重機を揃えることに没頭した。時の建設ブームに乗り、仕事は多忙を極め、それまでの苦労が報われた。各種の大型特殊免許は、つい最近まで活用していた。また昭和三十九年に起きた新潟地震の際には、水を携え現場へ赴き大変喜ばれた。明神橋の架け替えで現在地(天竜川堤防横)へ移住する時に、自宅への入り口構造でなかなか許可が出ず、当時の建設省と何回も交渉したことは、今となっては懐かしい思い出である。子供の頃から運動が好きで公民館の体育部長を三十九年間の長きに亘って勤め、ソフトボール、剣道、弓道など普及の礎を築いた。特にソフトボールは審判の資格を取り県の副理事長を務めたし、県のスポーツ功労賞を受け、村からも各種表彰を受けたことは嬉しい限りである。また田村区の委員、慈恵院の総代など公務にも精を出された。これもお世話になった世間への恩返しかなとしみじみ話された。猶男さんは仕事に、公務にと

文責 桐崎 長一
宮下 正弘



公民館報縮刷版発行

あの時、村では何が?

過去10年間(平成18年度~平成27年度)の公民館報を1冊にまとめた『公民館報縮刷版』を発行します

館報とよおか縮刷版(印刷・製本)…1冊4,000円
(DVDデータ)…1枚2,000円

※詳しくは、来月各ご家庭に配布するチラシをご覧ください。

市川猶男さん

九十一歳

北市場三在住



シリーズ「元気な高齢者」③7

仕事で築いた仲間の輪

今堪能する老後生活

大正十五年に現在地の近くで十人きょうだい(男女各五人)の三男として生まれた。父親(鹿角姓)は板金業を営んでおり、母親は新潟県の出身であった。きょうだいは仲が良く、喧嘩はほとんどしたことがなかったが、猶男さんはヤンチャで近所の遊び仲間のリーダー格であった。小学校を卒業し、手に職を付けさせようとする親の方針に従い、飯田の桶屋に住み込みで奉公に出て三年間働き、風呂桶から洗面用桶までの大小製品を作った。材料仕入れのため、時には木曾まで出かけることもあった。やがて奉公を終え自宅へ戻り桶作りを行った。しかし時は戦時下、猶男さんまでの男兄弟三人が出兵、長兄が戦死するという無念な味方を受けた。猶男さんは富山で訓練を受け、台湾へ派遣される直前に終戦となった。二十七歳の時に、飯田の市川家に養子に出て、同時に飯田出身の人と結婚し桶作りを継続した。そして運命の三六災に遭い実家は大きな被害を受けた。これを機に将来を見越して職業を建設業へと転換することを決意した。まずは重機を動かすための免許取得及び

こちら資料館 178

北垣外で土偶が出土

河野北垣外の会所新設予定地での発掘調査が終わり、八月十九日に現地説明

会が行われました。ここは三年前にイノシシの頭を模した獣面把手(写真1)が出土した場所から位置するため発掘当初から成果が期待されてきました。結果は予想通り、竪穴式住居跡(縄文中期、約四千年五百年前)が二棟ほぼ完全な形で出てきました。また、土器・石器類の出土は比較的少なかつたのですが、そ

の中に土偶が二体含まれていました。(写真2)状態がよくないため不鮮明ですが、二つとも女性の体を型どったもので、左が首から腰のあたりの下半身とみられ、右が腰のあたりの下半身とみられ、大ききの違いから別々の土偶と考えられます。豊丘での土



写真1

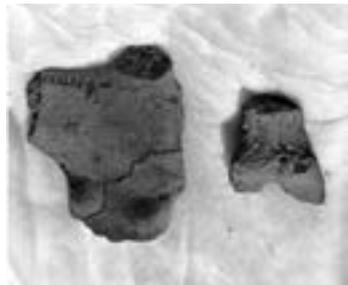


写真2

偶の出土は伴野原遺跡以外では初のケースで、大変貴重なものと思われまます。なお、現地は既に埋め戻

されて整地されています。従って、残念ながら遺構を見ることはできません。(資料館主任 唐澤武彦)

これは小学校を終えて遠山へ炊き(山師の飯場)の手つら(雑役夫)に行ったという人から、土地のおじいさんから聞いたという話を聞き取ったものである。

そこは伊那谷のある峠であった。旅人がたびたび通る峠には、どこにも必ず峠の茶屋があった。この峠にも古びた茶屋があつて、

お助け小屋と言つた。人里離れて山道を長く登つて来て、またしばらく下らねば人家のある所まで行かれない。たまたま疲れて峠につく頃は病人となる人もある。こんな時に茶屋ではねんごろに休ませてやるのでお助け小屋と呼んだのである。この小屋には老夫婦と一人娘が住んでいた。

ある日、爺さんは米や味噌など日用品を整え、店のある里へ出かけた。いろいろと用を足して帰り、山道にさしかかると、道に大きな蛇が蛙をくわえ、まさに蛇の極楽、蛙の地獄というところであつた。爺さんが蛙の毒の毒と思ひ、蛙を蛇から離して助けた。しかしいったん蛇に見込まれたものは、蛇は執念深く必ずまた探し出すと聞いていたので、蛙を二山超えた谷へ放つて家へ帰つた。

数日後の夕方、この茶屋に一人の若い旅人がたどり着いた。これから里まで下るには日は暮れてしま

夜間ソフトバレーボール大会リーグ戦閉幕



準優勝 ヒップ 優勝 バスト



準優勝 河野フレンドB 優勝 河野フレンドA

ゆるく温かな大会でした。バストチーム 松村詩織。今年は二週の総当たり戦で、例年より長い期間行われた大会でしたが、私たちのチームは、毎週北小で練習しているBWH(バスト・ウエスト・ヒップ)というチームの中の、練習不足なメンバーが集まったチームでしたので、この二周というのは調子を上げていくのに丁度よかつたのではない

かと思つています(笑)。優勝という聞こえはいいのですが、蓋をあけてみればどの試合も泥試合ばかりで、三セット目にもつれ込む試合が多かつたように感じます。勝率ではなく得失点差で争うことになっていけば、もしかするとこの優勝もなかつたのではと思ひますので、運も味方してくれた結果でした。

一番のピンチといえば、人が集まらず不戦敗になりかけた日があつたことですが、助つたのは因島、最初に渡



お助け小屋と言つた。人里離れて山道を長く登つて来て、またしばらく下らねば人家のある所まで行かれない。たまたま疲れて峠につく頃は病人となる人もある。こんな時に茶屋ではねんごろに休ませてやるのでお助け小屋と呼んだのである。この小屋には老夫婦と一人娘が住んでいた。

ある日、爺さんは米や味噌など日用品を整え、店のある里へ出かけた。いろいろと用を足して帰り、山道にさしかかると、道に大きな蛇が蛙をくわえ、まさに蛇の極楽、蛙の地獄というところであつた。爺さんが蛙の毒の毒と思ひ、蛙を蛇から離して助けた。しかしいったん蛇に見込まれたものは、蛇は執念深く必ずまた探し出すと聞いていたので、蛙を二山超えた谷へ放つて家へ帰つた。

数日後の夕方、この茶屋に一人の若い旅人がたどり着いた。これから里まで下るには日は暮れてしま

笑顔を楽しんで試合をしよう。河野フレンドA 唐沢梨恵。今年の夜間バレーボール大会は、七月十九日から九月二十七日まで約二カ月にわたつての試合でした。その二カ月の中で、豪雨・雷が落ちて停電してしまい、試合延期というハプニングもありましたが、全試合無事終えることが出来ました。試合前には緊張でガチガチになりますが、一戦一戦声

を出し練習の成果が出るように、そして何よりもチームの皆で『笑顔で楽しんで試合をしよう!』を合言葉に頑張りました。私達のチームはバレー経験も年齢層も幅広いですが、それぞれの良い所を認め合つて団結しています。お蔭様で昨年に続き、今年も優勝する事ができました。これからも、もっと仲間を増やし楽しんでバレーを続けていきたいです。来年もこの大会に出場したいです。

が、助つたのは因島、最初に渡る橋は因島大橋、橋の入り口まで、つづら折の自転車専用道に登るのだが六段変速の二、つまりローで三十分以上こぎ続けなければならぬ。全ての橋が同じで、橋によつては一時間前後こぎ続けたこともあつた。反面、渡り終えれば下りでルンルン気分的心境。この繰り返して六つの島を渡りきつたのだが、五月で好天に恵

断したり海岸線を走つたりで、苦しくもありまた楽しい。橋の構造は全部違つて、同じ物は無いのも興味深い。最後の来島海峡大橋(四千五百m)は三連橋で、他の橋も全て中央部分が高くなつていたので、自

から一夜を泊めて下さいと頼まれた。爺さんはこの茶屋は宿屋ではないので家も狭いし、布団もないしと断つたが、旅人はどんな庭の隅でもよいからと再三の頼みに越えて来て、一夜の宿を乞うた。一旦は断つたが、強く頼まれて余儀なく泊めることとした。夕飯も済み若夫婦は床についた。するとこの旅の女は静かに老夫婦に話しかけた。

「爺さん婆さん、おうちの若い旦那さんは私が見たところ何か変だね」と言い出した。老夫婦は、まあせつかく泊めてやつたのに家の若い者に難をつけてと怒りだした。(次号につづく)

転車で中央までが大変。最後の力を振り絞り渡り切つたときには、思わず「やつた!」と叫んだ。全走行キロ二日半で約百キロ。帰りは、今治から瀬戸大橋径由岡山行き特急で帰省した。

自転車をこぎ続けた因島大橋

八十歳の冒険

北市場三 山本義彦

(前号のつづき) ぐつすり眠り六時起床で七時朝食、快晴のツーリング日和に恵まれてホテルを後にした。最初(今治)が出発(今治)の島だけは、橋ではなく渡船で三分ほど、高校生が多かつた。自転車道の案内標識に従い、向島を進む。尾道に近いせいか工場も多いし高校もある。

お助け小屋と言つた。人里離れて山道を長く登つて来て、またしばらく下らねば人家のある所まで行かれない。たまたま疲れて峠につく頃は病人となる人もある。こんな時に茶屋ではねんごろに休ませてやるのでお助け小屋と呼んだのである。この小屋には老夫婦と一人娘が住んでいた。

ある日、爺さんは米や味噌など日用品を整え、店のある里へ出かけた。いろいろと用を足して帰り、山道にさしかかると、道に大きな蛇が蛙をくわえ、まさに蛇の極楽、蛙の地獄というところであつた。爺さんが蛙の毒の毒と思ひ、蛙を蛇から離して助けた。しかしいったん蛇に見込まれたものは、蛇は執念深く必ずまた探し出すと聞いていたので、蛙を二山超えた谷へ放つて家へ帰つた。

数日後の夕方、この茶屋に一人の若い旅人がたどり着いた。これから里まで下るには日は暮れてしま

とよおか100年前 22

『豊丘村民話集』より

お助け小屋と言つた。人里離れて山道を長く登つて来て、またしばらく下らねば人家のある所まで行かれない。たまたま疲れて峠につく頃は病人となる人もある。こんな時に茶屋ではねんごろに休ませてやるのでお助け小屋と呼んだのである。この小屋には老夫婦と一人娘が住んでいた。

ある日、爺さんは米や味噌など日用品を整え、店のある里へ出かけた。いろいろと用を足して帰り、山道にさしかかると、道に大きな蛇が蛙をくわえ、まさに蛇の極楽、蛙の地獄というところであつた。爺さんが蛙の毒の毒と思ひ、蛙を蛇から離して助けた。しかしいったん蛇に見込まれたものは、蛇は執念深く必ずまた探し出すと聞いていたので、蛙を二山超えた谷へ放つて家へ帰つた。

数日後の夕方、この茶屋に一人の若い旅人がたどり着いた。これから里まで下るには日は暮れてしま

文責 壬生雅穂

体協主催 マレットゴルフ大会は 雨天で囲碁ボール大会に

豊丘村体育協会主催の囲碁ボール大会が、九月十七日(日)に村民体育館で開催された。これは、予定されていたマレットゴルフ大会が雨により変更になったもので、競技方法は違うものの、参加者は日頃マレットゴルフで慣らしたスティックさばきで、初体験の囲碁ボールを楽しんでいた。

初心者ばかりの 囲碁ボール大会

山田 平澤敏彦

村民マレットゴルフ大会が雨のため中止となり、代わりに村民体育館で囲碁ボール大会が開催されるとの呼びかけが有線放送であり、早速、村民体育館に行きました。

はじめに体育協会役員の方からルール説明があり、その後みんなです少練習をしてからゲームに移りました。参加者はほとんど初心者ばかりで、ゲートボールやマレットゴルフとは違いなかなか難しいものの、昔やった五目並べと良く似ていてわかりやすい競技でした。

今回の囲碁ボールは、四人づつ白球と黒球に分かれて対戦しました。木のスティックを使ってチーム交互に球を打ち、囲碁マットの凹んだ所に球を止めていくのですが、相手チームの球が邪魔で狙ったところに止められず、また打ち込みの力加減でOBになったり、手前で止まったりで一球打つたびにチーム同士で誉めあったり、みんな初心者なので気楽にゲームに没頭して楽しんでいました。チームワークが良かったのか、私のチームは優勝することができました。



3目完成 ねらうは4目

今回囲碁ボールをやってみて、このゲームは高齢者にもってこいのゲームで、頭を使うので認知症予防に良く、またお互い笑いがあがり、和気あいあいと楽しめるので、今後ぜひ普及させていきたいと思います。

最後に、今回一緒に優勝を飾ったチームの同伴者と、体育協会役員の皆様感謝申し上げます。

~シリーズ~ 豊丘の自然

No.168

ウスバツバメガ
(マダラガ科)



見た事はあるが、名前で調べたかは記憶にない。そんな訳で、名前は分からない。そこで、『見つけよう 信州の昆虫たち』で調べてみた。全ページ(320)をめくる必要はない。しかも、ガの項の最初にあったので、すぐにウスバツバメガ(羽の薄いツバメに似た方)と分かった。

問題は、ここから。珍品度が五つ星。最も普通一つ星と極めて稀五つ星とあるから。写真には撮ったものの、採集しておけばよかったと思つたが、後のまつり。飯田市美術館学芸員の四方さんに、その辺りを尋ねてみると、「この辺りでは普通」とのこと。安心。記憶(心にとどめておくこと)ではなく、記録(のちのために書きつけること)することの大切さを、あらためて知った。

村内の沢筋には有名無名含め数多くの滝が存在するが、壬生沢舟平大平地籍には真つすぐに滝壺まで落水する実に男性的な成田不動滝に比べ、滝壺に広がる



末広りの優美な滝姿(平成6年)

白波からして女性的な滝とも言える『不動ヶ滝』の存在を忘れてはならない。瀑高約十七メートル、途中に突起する岩の障害物もないことで、美しい放射状の滝姿を見ることが出来る。享保十八年、下総の地・成田山より不動明王を奉祀して、雨乞いや悪病の流行を祓い祈願していた。大正期には毎年四月二十八日を例祭と定め、村内始め近隣

お知らせ

十一月二十六日(日)
午前九時~十二時
ふるさと探訪
石像文化財めぐり
主催:公民館社会部

十二月三日(日)
午後一時~三時
第十五回
さんかくセミナー
「パパとママの
子育てセミナー」
(託児有り)
主催:豊丘村男女共同参
画推進委員会

十二月十六日(土)
午後四時~
文化事業
「こよおか金時寄席」
(有料)
主催:文化事業実行委員会

十一月十六日(日)
午後一時~三時
第十五回
さんかくセミナー
「パパとママの
子育てセミナー」
(託児有り)
主催:豊丘村男女共同参
画推進委員会

俳句 短歌

門抜けてのうぜん天に咲き競う
無念とはこの地に果てし後の月
虫すだく湯宿に手足伸ばしをり
鶏頭の色とりどりに構えをり
女郎花に供へ安らかに
夫婦杉を終身に寺の秋
終戦日父待つ四人の姉として
お花畠日にも雨にも広がりぬ
萩揺るる伊那谷美し敗戦忌
お伽噺電話で語る夜長かな
段丘の子笑見守りて今朝の秋
段丘の鶏頭どれも荜強し
打ち習ふ太鼓の音に秋こもる

磯部セツ子
田中 静
片桐 洋子
下平 玲子
三島 保子
三島 里子
木下 眞水
宮下 照子
宮下 公
丸山 時子
林 恵美子
北原 昭子

〈短歌会 夢あるて〉
傘寿とはこんなものかと思いつつ頭の体操刻をかせぎて
民のため輪中治水をなしたげた先人の労に心うたれる 松尾ヒサコ
藤の葉の影が歩道にゆれる午後少女二人のハミング聞こゆ 福澤貴美恵
亡母の着物ほどいてもんべ作りたり色褪せおるも私のいっぴん 眞由美
岐阜の旅杉原千畝を知りてより命のビザの話し伝えむ 筒井 恵子

壬生沢川に優瀑あり 不動滝は今も昔も

村道壬生沢線より川に向かい下つて行くと、滝音とともに岩を流れる水の音が聞こえてくる。マイナスイオンを振りまく滝に魅せられて、今でも時々訪れるのである。写真と文/宮下正弘

の村より信者が集まり盛大に祭りが行われたとされる。滝敷地内には、松尾多勢子の詠んだ「萬世も絶へぬ流れを美ふ沢の滝の志ら糸くりかへしつ」八十二歳のときの歌碑があり、昔より多くの人に親しまれてきた様子がうかがえる。不動明王が鎮座する岩上に拝殿を作り、行者による護摩木を焚いて祈願祭を行っていたが、戦後は神社制度改正により廃止されて

《豊丘川柳クラブ豊柳会》
▼課題「突」 福沢勝美 選
核と核探るばかりの突破口 原 美風
突然のJアラートに面食らう 市沢 照子
ジェット桐生切砥琢磨で壁突破 西元 峯子
軸吟:泣きどころ突かれ大臣うろたえる 福澤 亀人
▼課題「涼」 互 選
嘘ばかり政財界は涼し顔 山本 義彦
涼しげな目元少年夢語る 桃沢 健介
涼しい顔心にもない世辞を言い 林 桃子
▼自由吟 桃沢健介 選
土に生き鐵に流れる汗の玉 安田 喜子
激動の昭和生き抜き米寿かな 吉川 燎
ミサイルだ核だと人のおろかな世 福沢 勝美
北鮮のあがき日本の過去に似る 久保ひろし
軸吟:許せない疑惑ウヤムヤ総選挙

柳
軸吟:許せない疑惑ウヤムヤ総選挙